



## はたちを迎える43名の門出

# 結 ～ここから始まる未来への第一歩～

1月7日（日）文化会館で「はたちの集い」が執り行われました。当日は、対象者43名のうち男性18名と女性13名の総勢31名が出席しました。本号では、式典の様子と出席者インタビューについて紹介します。

式典の開始1時間前から、華やかな晴れ着やスーツ姿の二十歳の皆さんが会場を訪れ、懐かしい友人の顔を見つけては、思い出話や近況の報告など談笑する姿が見られました。また、友人や保護者と一緒にスマートフォンで記念撮影をする姿も見られ、お互いの再会を喜び合いました。

式典が始まり、来賓祝辞の挨拶では、町議会 石山貴美夫いしやまきみお議長をはじめ、県議会・国会議員等から祝辞が述べられると、真剣に耳を傾けながら厳かな雰囲気で行進されました。

はたちの皆さまの紹介では、名前を読み上げられると、返事と共に立ち上がり一礼する様子が、ステージ上のスクリーンに映し出されました。また、それを見守る保護者や関係者からは温かな拍手が送られました。

記念行事では、恒例の赤石太鼓保存会の演奏が始まり、力強い音色にはたちの皆さんは真剣に聴き入りました。また、小中学校時代の懐かしい写真がスクリーンに映し出されると、仲間と顔を見合わせたり、笑顔で楽しむ様子が伺えました。小中学校時代の恩師から



当日の様子を町公式ホームページで紹介しています。

広報紙で掲載できなかった当日の様子を掲載しています。下のQRコードにアクセスして、ぜひご覧ください。



記念品授与

町長から記念品を受け取る、高畑菜悠さん（上長尾区）

の言葉では、思い出エピソードを交えながら、「これからも困難を乗り越えそれぞれの道を歩んでほしい」と激励の言葉が贈られました。

はたちを迎えられた皆さん、おめでとうございます。これからたくさんのお会いや新たな繋がりの中で、自分の強みを理解し、柔軟に新しい挑戦を受け入れていってください。困ったときは友人や周りを頼りながら、それぞれの夢や目標に向かって頑張ってください。

# 式辞

そのだ  
やすくに  
蘭田 靖邦 町長

新春の良き日に、晴れて二十歳を迎えられました四十三名の皆さん、誠におめでとうございます。皆さんの門出をお祝いするとともに、今日まで愛情をこめて育ててこられたご両親をはじめご家族の皆様、そして熱心にご指導してくださった諸先生方に対しまして、心からお喜びを申し上げます。さて、晴れて二十歳となられた皆さんには、これから社会の一員として大きく羽ばたいてほしいと思います。

ただ、人生には、良い時も悪い時もあります。失敗をして悩むことも、挑戦してつまづくこともあるかと思えます。しかし、若い皆さんは、まだまだ上手も下手もありません。いろいろな経験を積み重ねながら一日一日を大切に歩んでほしいと思います。

いつの日か、自分に問う時が来るとしたら、その時々で答えを出していけば良いと思います。

私自身、今も、いつも、問いかけながら、方向を見つけて事にあたっています。常に「問い続ける」ことを忘れず、「川根本町愛」を胸に、千年先も続く町を目指して懸命に取り組んでまいります。

共通の思い出を持つ、かけがえない仲間がいるこの川根本町という小さな町が、未来に向かって、力いっぱい頑張っているということとを忘れないでください。

そして、この町が持つ温かさ、優しさ、強さは、次代を担う皆さんにも、きつと受け継がれていると信じています。一人でも多くの人が、これからの「ふるさと川根本町」に関わっていただくことを期待しています。

結びに、深い愛情をもって献身的に皆さんを育ててこられたご両親、ご家族への感謝と、ふるさとを愛する心を忘れることなく、自らの夢の実現に向けてご活躍されることを期待し、式辞とさせていただきます。

## はたちのインタビュー

将来は体育教師になることが夢で、現在は福井県の大学でスポーツを専攻し、カヌーをしています。

二十歳になるまであっという間でしたが、ここまで育ててくれた家族にありがとうと伝えたいです。これからも応援よろしく願います。



わだ こうせい  
和田 康成さん (寺馬区)

現在は、大学で地域活性について勉強しています。今後は川根本町がより良い町になるためにたくさん勉強して、将来はこの町に戻り活躍できるように頑張ります。

家族には迷惑をかけたこともあったけど、これから少しずつ恩返しをしていきたいです。



おおもり あや  
大森 彩さん (高郷区)

# 謝辞

よこみち  
横道

らん  
蘭さん  
(奥泉区)



私たちは、二十歳を迎え、もうすでに就職し働いている者や学業に励んでいる者など立場は様々ですが、それぞれがこの川根本町で過ごしたことを誇りに前へ進んでいます。

私は川根本町で、高校卒業まで過ごしました。高校生の時には地域の方や保護者の方に支えられながらカヌーで全国を舞台とした貴重な経験をさせていただきました。県外へ行くことも多い中で、私たちがカヌーだけに集中し鍛錬できるようにしていただいたこと、とても感謝しています。その他、学校生活の中でも私生活の中でも町の皆様に支えられていると感じていました。

現在は川根本町を離れ、看護学生として日々励んでいます。大変な日々で心が折れてしまいそうな時もありますが、川根本町で過ごして得たものや支えてくださった皆様へ恩返しをしたいという思いが私を鼓舞します。今後も夢を叶えるために日々励んでいきたいと思っています。

最後になりましたが、晴れて二十歳という大きな節目を迎えることができたのは、家族や友人をはじめ、先生方、今まで関わってくださった皆様のおかげです。これからはお世話になった皆様への感謝の気持ちを忘れずに、社会に貢献できるよう努めて参ります。



なかむら ひより  
中村 日和さん (梅高区)

専門学校に通い医療事務についての勉強をしています。

「目標を叶える」ことで、川根本町の人々や家族に感謝と恩返しができるように、夢に向かって頑張ります。

今まで育ててくれてありがとうございます。これからもよろしくお願ひします。



あしざわ ゆう  
芦沢 愉羽さん (奥泉区)

久しぶりに友人や恩師と再会して、皆立派に成長していて話が盛り上がりました。

現在は、車の部品の製造業で働いています。立ち作業が多く大変なこともあります。不良品を出さないように気をつけながら頑張ります。

家族へ、「ずっと支えてくれてありがとう」

# はたちの主張

にしだ  
西田 就真さん（徳山区）  
しめうま



私は、高校卒業までの18年間にこの町で過ごし、大学進学を機に川根本町から離れて約2年が経ちました。慣れ親しんだ環境を出て、一人で生活をする中で、これまでの自分の生活が多くの人のおかげによって成り立っていたということを実感しました。様々な経験を共にし、笑いあった友人や、私に親身になって指導していただいた学校の先生方、私のことを気にかけて私の頑張りを自分のことのように

に喜んでくださる地域の方々。こういった方々からの支えを当たり前前に思ってしまった時もありましたが、今改めて助けてくれる人がいるという幸せと感謝の気持ちをかみしめています。私が困難に直面したときも、いつも通りの明るい笑顔と思いやりのある声掛けに勇気づけられました。本当にありがとうございます。

私は、周りの方々からの温かい支えのおかげで何事にも前向きに向かっていくことができました。日々の学校生活や部活動はもちろん、カナダ、インドへの海外研修、大学受験など川根本町ならではのチャレンジができたのではないかと思います。その時その時で自分がやったことの無いことに対して一歩踏み出して、失敗をしながらも懸命にもがくことができたというのは貴重な経験だったと感じています。海外研修の企画や、公営塾などの教育の支援等、挑戦できる環境を提供していただいた川根本町には感謝しています。

私は現在、大学で土木について勉強をしています。土木分野はあまり大きく取り上げられることは少ないですが、道路やダム、ライフレインなどのインフラは生活に不可欠なものです。元日の日本を襲った、能登半島地震では多くのインフラが脅威に晒されました。地震の揺れによる直接的な被害ももちろんありますが、インフラが

正常に機能しないことによる二次被害も深刻です。連日流れる被害のニュースには心が痛みますが、日本にいる以上は避けられない現実として受け止めなければなりません。私は将来、土木の技術者としてこの厳しい現実に向き合っていきたいと思います。災害に屈することなく、地域を支えることのできる社会基盤の整備。それを実現するために、今は様々なことを柔軟に理解し、知識を吸収していきたいと考えています。

二十歳の節目を迎えるにあたり、一番感謝を伝えたい人がいます。それは家族です。私が上手くいっている時も、悩んでいる時も変わらずサポートしていただきました。その支えが私の原動力でした。本当にありがとうございます。家族として楽しいことから苦しいことまで様々な経験をしました。しかし、私にとっての一番の財産は何でもない日を共有できたことです。ご飯を食べて他愛もないことで笑う。そういった小さな幸せは、私にとってかけがえのないものです。今まで多くの面倒をかけてきた分、これから少しずつ恩返しをさせていただきます。

最後になりますが、今まで私を支えてくれた全ての方々に感謝を示し、その支えに応えられるようにこれからの人生を歩んでいくことを誓い、私からの言葉とさせていただきます。



滝浪 たきなみ

涼介さん りょうすけ (大間区)

私は、約20年間この川根本町の山奥で暮らしてきました。友達との思い出やお世話になった方が沢山いますが、私はこの町を高校卒業とともに出て、現在デザイナーを目指し、東京の服飾の大学に通っています。東京という大舞台で、日々刺激を受け、沢山の情報、沢山の人の支えられ生活しています。

東京での大学生活があと、2年ありますが、私は今年、東京の間とともにブランドを立ち上げることを決めていて、それに向けて今は準備をする段階です。自分達のブランドを始めるとともに4月からインターンが始まり、次の年には就活や、ブランドを本格的に始めていく時期になります。

今までよりも忙しくなると思いますが、自分のやっていることに誇りを持ち、いつかは海外に出て、沢山の人たちに自分のデザインをみていただけるような人間になること。先日石川県で震災がありました。先石川県で震災がありました。そのような時に行動できず、かっこいい人間になるために、同じ目標を持つ仲間またはライバルと競争心を持ちながら、とても有意義で、楽しみながら夢に一步步近づいていこうと思います。

成人となった今、一人でも多くの人を喜ばせるような人間になり、社会の一員として、責任感と希望を持ち、思いやりや、感謝を忘れずに生活していくことを誓うとともに、仲間のこれからの活躍を応援したいと思います。

## 恩師からメッセージ

式典の第2部では恩師から、はたちの皆さんにエールが贈られました。



いとう たける  
伊藤 雄さん

これから社会に出て、色々なことを経験する中で、苦しいこと、大変なことがたくさんありますが、それ以上に新しい出会いやうれしいこともたくさんあります。これからも応援しています。



はにゅう けんたろう  
羽入 健太郎さん

これから先、たくさん失敗や経験をします。私もこの10年間でたくさん失敗をしました。

これからもさまざまな経験や失敗を乗り越えて、素敵な20代を送ってください。